

事業名:	生活困窮世帯への食料支援強化事業
資金分配団体:	一般社団法人全国フードバンク推進協議会
実行団体数:	7団体
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	北海道、新潟県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、福岡県
事業対象者:	失業者、大学生、ひとり親世帯等の生活困窮世帯

進捗報告/事後評価に向けた評価計画

I. 実施状況の分析

リスク要因の把握と対処：事業実施上想定されるリスク要因 (組織外、組織内)	状況の把握方法	想定する対応方法
<p>実行団体の中で、他の休眠預金事業の助成を受けている団体があるため、重複にならないように注意する必要がある。</p> <p>また、実行団体の中には、組織基盤が整っておらず契約に関する事務手続きが比較的遅い団体もあるため、助成事業の実施も遅れないように注意が必要である。</p> <p>また、助成事業の実施にあたり、初めて人を雇用する団体もあるため、労務関係の手続きのサポートが必要であると考えられる。</p>	<p>他の休眠預金の助成事業との重複については、内定後に他の助成事業の内容と重複がないように実行団体と確認を行う。</p> <p>組織基盤の整っていないと思われる団体は、毎月のヒアリングの際に状況を確認する。</p>	<p>他の休眠預金の助成事業との重複については、開始時点だけでなく、毎月のヒアリングの際に、重複がないか、事業内容と資金の使途を確認していく。</p> <p>また組織基盤が整っていない団体は特に毎月のヒアリングで注意して確認し、必要に応じてサポートを行う。当団体としては、組織基盤が脆弱な実行団体の会計や労務など、伴走支援を行うための人員を雇用する予定である。</p>

II. 見直し後*の事業実施で達成される状態（アウトプット） 及び アウトプット指標（実施・到達状況の目安とする指標）/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実施を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
1実行団体あたり、生活困窮世帯に年間延べ1200件の食料支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 福祉機関・団体との連携関係構築件数 食料支援を実施した延べ世帯数 食料支援に使用した食品の重量 食品寄贈企業数 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉機関・団体との連携件数をカウント 食料支援を実施した延べ世帯数のカウント 食料支援に使用した食品の重量の計測 食品寄贈企業数のカウント 	1実行団体あたり、 ・5つの福祉機関・団体との連携関係構築 ・延べ食料支援実施世帯数、1200世帯 ・約12トンの食品を困窮世帯に提供	2022年2月末

*実行団体の事業計画等から見直した結果

III. 見直し後(*)の事業実施後（1年後）以降に目標とする状態 及び 目安とする指標（※指標については設定可能であれば、で構いません）

事業実施後（1年後）以降に目標とする状態	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	実施時期
<p>助成を受けた実行団体が、行政・福祉機関・他団体と連携関係を構築し生活困窮世帯の早期の把握、早期の食料支援（年間1000世帯以上）の実施が可能な体制となる。</p> <p>食料を複数回に渡って届けることで、継続的に貧困家庭をフォローし、見守りを行う。</p> <p>行政・福祉機関・他団体と連携関係を構築することにより、困窮世帯に食料支援を行うだけでなく、様々な公的支援につながる状態。</p> <p>食料支援やその他の公的支援を受けることにより、困窮世帯の食事の回数や量が増加し、生活環境が改善されている状態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福祉機関・団体との連携関係構築件数 食料支援を実施した延べ世帯数 食料支援に使用した食品の重量 食品寄贈企業数 食料支援活動による見守りを通して、困窮世帯の生活状況を確認した回数 困窮世帯を食料支援だけでなく、公的支援につないだ回数 困窮世帯の食事の回数や量の変化 困窮世帯の生活環境の改善状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉機関・団体との連携件数をカウント 食料支援を実施した延べ世帯数のカウント 食料支援に使用した食品の重量の計測 食品寄贈企業数のカウント 実行団体を通して、見守りの回数、公的支援につないだ回数、支援を行った困窮世帯の食事の回数や量の変化、生活環境の改善状況を確認する。 	2022年6月

*実行団体の事業計画等から見直した結果